



国立病院機構(NHO)宇都宮病院広報誌

わかあゆ

WAKA-AYU



基本理念

私たちは 地域から強く信頼される病院を目指します
そのために 誠実で前向きで勤勉であるよう努めます

目次

20 **春** 20
第55号
広報誌 / 年4回発行
発行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：令和 2年4月1日
発行責任者：田 中 孝 昭

- | | | | |
|--------------------------|---|--------------------------------|---|
| ■ 院長就任挨拶 | 1 | ■ 重症児者の医療とケアに関する在宅医療セミナー | 5 |
| ■ 医学部教授から副院長へ | 2 | ■ わくわくいっぱい特別療育 | 5 |
| ■ 皆さんのお仕事は「感情労働」です | 3 | ■ 連携室だより | 6 |
| ■ 医療連携結核研修会 | 4 | | |
| ■ 第35回医療連携学術講演会 | 4 | | |

院長就任あいさつ

院長 田中 孝昭

この度、国立病院機構宇都宮病院院長を拝命しました田中孝昭です。私は平成13年7月に、熊谷医師（現、当院外科系診療部長）、斎藤医師（現、慈恵医大整形外科主任教授）と共に臨床研究部長として赴任しました。実はその前の平成7年にも、2つの国立療養所の合併後に新設された臨床研究部の整備のため、整形外科医長として約1年間勤務しました。当時の院長は松葉先生で、その後、上野先生、吉武先生、そして平成20年からは前院長の沼尾先生とともに副院長として病院のかじ取りを担ってきました。その間、研修医制度の変更に伴う医師不足、独立行政法人化、東日本大震災、再編統合の対象病院等、様々な問題に直面してきました。これまで医療レベルの向上はもちろん、経営面においても慢性的な赤字体質からの脱却を目指し、10年連続で黒字を出せるようになったことは、沼尾先生との大きな功績かと思います。1日100名以上の外来診察、年間約300件の手術を行いながらの院長職は厳しいですが、副院長の杉山医師、統括診療部長の増田医師のサポートを受けながら任務を遂行したいと考えております。

現在、新型コロナウイルス感染症という、また新たな困難を抱えていますが、職員一丸となつてこの難局を乗り越え、地域からのさらなる信頼を得られる病院を目指すつもりでおります。



医学部教授から副院長へ

～専門は、喘息、リウマチ、食物アレルギーです～

副院長 杉山 公美弥

獨協医科大学 埼玉医療センター 呼吸器・アレルギー内科より本年1月に赴任し、4月より副院長に就任しました。

気管支喘息、COPD、食物アレルギーなど呼吸器・アレルギー疾患が専門分野のひとつで、診療だけでなく、動物実験を含めた研究を現在も行っています。喘息治療はバイオ製剤の登場により大きく進歩し、難治症例のコントロールも良好になりました。食物アレルギーは成人も含めて増加傾向にあり、シラカンバ(白樺)などの花粉症を機に、果実や大豆アレルギーを発症する例が最近増えています。花粉症由来の有無を精査し、交差する食材の注意喚起が有効です。

もう一つの専門は、リウマチ性疾患です。2013年に獨協埼玉に異動後、地域的にリウマチ専門医の需要が高く、リウマチ性疾患の診療がメインになりました。リウマチ性疾患の難治症例は、間質性肺炎を併発する例が多く、間質性肺炎のコントロールが鍵となります。また、バイオ製剤の登場により疾患コントロールは大幅に向上しましたが、副作用で肺炎を併発する例も増えています。呼吸器およびリウマチ両方の専門医資格を最大限に生かし、トータル診療を得意としています。

私の専門分野で、この地域のニーズにあった診療を行っていきますので、近隣の先生方、病診連携をよろしくお願いいたします。不慣れな副院長職のため、ご迷惑をお掛けしますが、患者さんの幸せ、職員の幸せ、病院の発展、そして地域の安心のため、一生懸命に努めますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

【略歴】

1992年 福島県立医科大学 卒業
1998年 米国ハーバード大学(バス イスラエル
ディーコネス医療センター)留学
2002年 当院 呼吸器内科(1年間)
2005年 獨協医科大学 講師
2012年 獨協医科大学 准教授
2015年 獨協医科大学 教授
2020年 獨協医科大学 特任教授(現職: 併任)

【主な専門医資格】

医学博士
臨床研修指導医
総合内科専門医・指導医(日本内科学会)
呼吸器専門医・指導医(日本呼吸器学会)
アレルギー専門医・指導医(日本アレルギー学会)
リウマチ専門医・指導医(日本リウマチ学会)
感染制御医: ICD(日本感染症学会推薦)
がん治療認定医・指導責任者(同機構)



皆さんのお仕事は「感情労働」です

株式会社ライフデザイン 公認心理師 伊藤 幸子

「感情労働」という言葉をご存じですか？某ファストフード店に行くとメニューの端に「スマイル0円」とありますね。病院の支払い明細には「スマイル」欄はありませんが、来院される方は職員が笑顔で対応することを無意識に当然とすら思っています。

「感情労働」とは仕事をする上で感情をコントロールする必要がある労働のことです。医療福祉に代表される対人援助職や教育関係、接客業がこれに当たります。

コントロールするのに困難な感情の代表的なものは「怒り」でしょう。病を得て、不安な状態にある人は「怒り」を表に出しやすくなります。その「怒り」を浴びて、こちらの「怒り」が触発されてしまったとき、皆さんはどうしていますか？

例えば、忙しい中、一生懸命関わっているのに、「やり方が悪い」「来るのが遅い」と言われてしまう。その時「怒り」がわくことがあります。

対処の方法は3つ。一つめは、感情を心の中に抑え込むことです。抑えるので、他の人から「怒っているのか？」「困っているのか？」「悲しんでいるのか？」が見えないので、援助を受けられる可能性が低くなります。一番取ってしまいがちな方法ですが、感情を抑制すればするほど「我慢はしたけど収まらない！」という状態になり、エネルギーの消費量が多くなります。身体的にも一番影響が出ますし、帰宅後も収まらず、家族に当たってしまったり、あれこれ悔やんだりして、オンとオフの区別がつきにくくなります。

二つめは、気をそらすことです。別なことに意識を向ける、別の作業や行動をすることによって、考えたくない感情に意識が向かわずに済むようにすることです。

三つめは、感情そのものや原因となった出来事について「考え直してみる」ことです。「ああいう言葉を自分に投げかけたのはなぜか？」と客観的に見ることで、怒りに巻き込まれません。

アンガーマネジメントでは「6秒ルール」があります。怒りのピークは6秒間。その間に「売り言葉に買い言葉」で反射的に行動しないというルールです。その後は、

- ・できれば、怒りの原因であることから距離を取る。
- ・深呼吸。新しい空気が入ることを意識して吸って、吐く時は「怒る気持ち」を出すつもりで10秒程度時間をかけて。

・「怒り」の客観視。自分は今、怒っているんだなということに気づく。

ここまで来ればだいぶ落ち着くでしょう。

職場内の人間関係がギスギスしていると、職員同士で本心が出せず、助け合えないので、しんどくなってきます。感じてはいけない感情などありません。皆さんで声を掛け合って、お互いにねぎらったり認め合ったりできる職場を作っていきます。



研修会の様子

医療連携結核研修会

「結核低まん延時代に向けた医療体制の課題と展望」

呼吸器内科医長 野村 由至

令和2年2月6日、暖冬の中の寒い1日となりましたが、大変多くの方に御越しいただき、医療連携結核研修会が開催されました。一般演題は当方から「結核を見逃さないために」の題でお話しさせていただき、特別講演は山形県健康福祉部の阿彦忠之医療統括監をお招きして、「結核低まん延



野村 由至 医師

時代に向けた医療体制の課題と展望」の御題でご講演いただきました。結核病床ゼロの結核医療体制で運用されている山形県におきまして、現状、そこに至るまでの経緯、御苦労など伺うことができました。そして増加している外国人結核、高齢者結核など今後の結核医療の課題についてお話いただきました。罹患率の低下してきている栃木県において、結核医療体制の今後につなげていける講演会となりました。



阿彦 忠之 先生

第35回 医療連携学術講演会【アレルギー疾患】について

呼吸器内科医長 勝部 乙大



吉原 重美 先生

近年、わが国では乳幼児から高齢者まで国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患を有しているといわれており、2014年には「アレルギー疾患対策基本法」が成立して医療提供体制の整備が全国的に進められています。このため、2020年2月20日に当院にて「アレルギー疾患」に関する学術講演会を開催しました。

特別講演1として獨協医科大学の吉原重美先生（小児科主任教授）から、特別講演2として埼玉医科大学の永田真先生（呼吸器内科教授）からご講演いただきました。

吉原先生は食物アレルギーとアナフィラキシーについて、永田先生はアレルギーの免疫療法と喘息治療の最先端についてご講演されました。食物アレルギーやアナフィラキシーなどの特殊なアレルギーは診断が難しく、また気管支喘息は重症型における生物学的製剤治療や免疫療法をどのように組み合わせるかが難しいので、非常に興味深く拝聴させていただきました。ご講演を聞いてアレルギー診療が非常に進歩してきていることを知り、アレルギー外来にご家族を連れて受診したスタッフもいました。

当院はこれまで「アレルギー学会専門医教育研修施設」（宇都宮市内に2病院）として、地域医療の充実や若手医師の育成に取り組んできましたが、2019年2月にアレルギー疾患医療中核病院に選定されたことを受けて、2019年7月に「アレルギー外来（成人）」を開設しました。

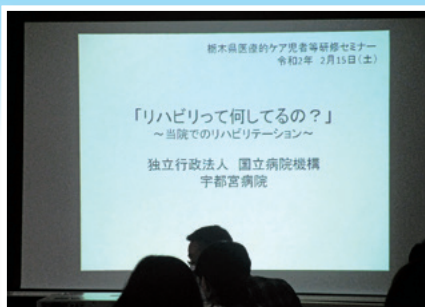
当院にはアレルギー専門医・指導医が現在4名在籍しており、大学病院以外では県内最多となっております。アレルギーに悩む患者さんのお力になれるよう診療しておりますので、どうぞお気軽に相談ください。



永田 真 先生

重症児者の医療とケアに関する在宅医療セミナー

理学療法士 月岡 亮



令和2年2月15日に当院にて重症児者の医療とケアに関する在宅医療セミナーが開かれました。当院の青木栄養管理室長からは「安全に楽しく食べるために～嚥下食の紹介～」というテーマでご講演して頂き、私の方では「リハビリって何しているの?～当院でのリハビリテーション～」というテーマで講演をさせて頂きました。

小児の分野では対象者とその家族に対し、多くの職種が関わります。そこで私の方では、リハビリテーションにおける「日常生活への支援」「成長・発達への支援」といった点を軸に、

リハビリ職の関わり方と、多職種との情報共有が大切である事をお話しさせて頂きました。

当日は地域でご活躍されている看護師、作業療法士、栄養士といった複数の職種の方にご参加頂きました。質疑応答の時間では、情報共有の方法、短期入所や車椅子作成等に関するご質問を頂き、活発な意見交換となりました。

また、講演会終了後も個別に質問に来て頂いた方もいらっしゃり、リハビリに対する関心の高さを実感し私自身も身を引き締める良い機会となりました。

最後に、セミナー開催にあたりご協力いただきました、病院関係者の皆様に深くお礼申し上げます。



セミナーの様子

わくわくいっぱい特別療育

療育指導室 小池 穂波

お菓子作りや作ったお菓子をみんなで楽しむ「特別療育」が賑やかに行われました。今回は「チョコレートケーキ」や「いちごみるくプリン」などを作り、チョコレートやいちごジャムなどの甘い匂いがデイルームいっぱいに広がりました。午前中はデイルームで利用者さんの目の前でお菓子作りをし、お菓子の甘い匂いや作っている様子を実際に見ることで、試食への期待感に繋がりました。材料を利用者さんに近づけると、口を大きく開けたり笑顔になったりして「食べたいな」という気持ちを伝えてくれました。午後は試食を行いました。完成したお菓子をぱくぱくと口を開けて食べる姿や、少しでも残さないように何度もスプーンですくいあげる利用者さんの姿が見られ、お菓子作りをした職員たちも幸せな気持ちになりました。経口摂取できない利用者さんにはお菓子の材料の匂いや感触を楽しんでもらいました。甘い匂いが伝わった様で口を開けたり表情が緩む利用者さんもいました。



口を開けたり表情が緩む利用者さんもいました。

利用者さんが笑顔になるイベント「特別療育」。「次は何のお菓子を作るのかな?」とわくわくした気持ちが増えるようこれからも頑張っていきます!!



『連携室だより』

連携室からのお願い

当院は地域医療支援病院として地域の医療機関との連携及び機能分化※に取り組んでいます。当院を受診（初診）される際には、かかりつけの先生からの紹介状（診療情報提供書）をお持ち下さい。

ポイント



紹介状（診療情報提供書）の持参をお願いすることには理由があります。

- 初診時には、診察料の他に**特定療養費 5,500 円**がかかります。
- 他院で内科疾患の治療していた方が、当院への通院治療を希望される場合
 - これまでの検査結果や経過がわからないと、同じ検査をもう一度行うことになり時間とお金がかかってしまいます。（患者さんの負担が大きくなります）
 - 大学病院や大きな病院に通院されていた場合も同じです。
- 手術や内視鏡検査を行う可能性のある方
 - 現在の治療や内服薬の情報から当院で安全に治療・検査が受けられるようにします。
 - ・ 血が止まりにくくなる薬を飲んでいるかもしれないので確認が必要です。
 - ・ 現在飲んでいる薬を治療・検査時にどうすればよいか確認します。
 - ・ 治療・検査時に薬の調整が必要になるかもしれません。

【外科や整形外科を受診される場合でも、内科的な治療経過やお薬の情報は大切です。かかりつけの先生からの紹介状を是非お持ち下さい。】

編集後記

新型コロナウイルスにより、社会が一変してしまいました。映画や漫画の世界ではないので、誰もこんなことが起きるとは予測できなかったと思います。ウィルスの危険度の認識は、人によって差があるようです。分らないことが多い中で日用品の買占めが起きたり、イベント自粛など社会全体が活動停止しそうな状況です。また、多くの医療スタッフがイレギュラーな対応に迫られ、疲弊しています。新型コロナウイルスは人の体だけでなく、社会全体に感染して蝕んでいるウイルスですね。早期に落ち着いてほしいと思います。

管理課 白潟 慎一



【八重桜】

表紙撮影：獨協医大 松村 薫さん

外来診療担当医表

(令和2年4月1日～)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合内科	午前	杉山公美弥	陣内 秀仁	勝部 乙大	南 建輔 志水太郎(第3週) 栗原桃子(第1・2・4・5週)	志水太郎(第1・2・4・5週) 前田光徳(第3週)
	午後	佐藤 稔	菊池 朋子	田中 精一	佐藤 稔	森 豊
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔			佐藤 稔	
	午後	佐藤 稔			佐藤 稔	
脳神経内科	午前	作田 英樹			濱口 眞衣	
	午後	作田 英樹				
神経難病外来(午後・予約制)				作田 英樹		
消化器内科／ 消化器病センター	午前	土田 幸平	菅谷 洋子	岩崎 茉莉	菅谷 洋子	前田 光徳
	午後	土田 幸平	菅谷 洋子	陣内 秀仁	菅谷 洋子	前田 光徳
胆膵専門外来					土田 幸平	
呼吸器内科	午前	梅津 貴史	野村 由至 勝部 乙大	勝部 乙大 安西真紀子	梅津 貴史	野村 由至 池田 直哉
	午後	杉山公美弥		安西真紀子		沼尾 利郎 池田 直哉
禁煙外来(保険適用)(午後・予約制)		杉山公美弥		安西真紀子		沼尾 利郎
アレルギー外来(成人)(午後・予約制)		杉山公美弥	勝部 乙大			杉山公美弥
リウマチ膠原病内科	午前			高村 雄太		
	午後	杉山公美弥		高村 雄太		杉山公美弥
小児科	午前		影山さち子 [予 約 制]	影山さち子 [予 約 制]		影山さち子 [予 約 制](第4週以外)
	午後		影山さち子 [予 約 制]		子供療育相談ルーム [予 約 制](第2・4週)	影山さち子 [予 約 制](第4週以外)
外科	午前	増田 典弘 滝瀬修平(第1・3・5週) 舘野航平(第2・4週)	小川 敦 山口 悟	滝田 純子 小川 敦	増田 典弘 滝田 純子	滝田 純子 増田 典弘 中島 政信 河谷奈津子 (呼吸器外科)
	午後					伊藤 淳 (乳腺外科)(第2・4週)
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶園 昌明	熊谷吉夫(第1・5週) 田中孝昭(第2・3・4週)	茶園昌明(第1・3・5週) 石川義久(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	小牧 宏和	種田 雅仁	小幡新太郎(第1・5週) 茶園昌明(第2・4週) 熊谷吉夫(第3週)	小牧宏和(第1・3週) 種田雅仁(第5週)	小幡新太郎
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷吉夫(第1・5週) 田中孝昭(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶園 昌明	茶園 昌明	熊谷 吉夫
装具外来		田中 孝昭				熊谷 吉夫
側弯症外来					茶園昌明(第4週)	
障害者歯科						石川 博之

外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30～11:00 迄です。緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)
担当(ソーシャルワーカー): 畑野・吉田・市村・高德・加藤・福富・永山(内線 133)

- 下記は入院患者さんを中心として診療しております。

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
循環器内科	午前		伊藤 致	田所 寿剛		和久隆太郎
	午後	渡邊 諒	伊藤 致	田所 寿剛		
歯科		渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
眼科(午後)						松原 忠之
皮膚科(午後)				岡本 麻希		
耳鼻咽喉科(午後)		交替制				

- 診療時間は8:30～17:15迄です。
- 休診は土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)です。
- 都合により臨時休診になる診療科もありますので、ご確認のうえ、ご来院ください。



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

<https://utsunomiya.hosp.go.jp>